

令和5年度環境保全計画書

1. 環境方針

2023年度キリンググループ環境目標

1. 生物資源

- ・RA 認証紅茶農園^{※1}産原料、FSC 認証紙^{※2}、RSPO 認証パーム油^{※3}の使用継続・拡大
- ・スリランカの紅茶農園、ベトナムのコーヒー農園へのRA 認証取得支援継続・拡大
- ・国内原料生産地（ヴィンヤード・ホップ畑）の生態系調査、生態系を守る活動^{※4}の継続・拡大
- ・品質管理精度向上と需給予測精度向上による製品廃棄発生量の削減

2. 水資源

- ・渇水等リスクに備えた用水削減と適切な循環利用の維持・推進
- ・水源の森のお客様活用の推進、清掃・美化活動の推進
- ・スリランカ紅茶農園内の水源地保全活動の継続

3. 容器包装

- ・3R（Reduce・Reuse・Recycle）+ Renewable^{※5}に配慮した容器包装の開発・採用等の継続・推進
- ・プラスチックポリシー実現に向けた、資源循環^{※6}、ワンウェイプラスチック削減及び他の素材（リサイクル樹脂、バイオマス）への代替、単一素材化、PET ボトルの持続性向上^{※7} 推進、海岸清掃活動等への参画

4. 気候変動対応

- ・SBT1.5^{※8} へ対応した GHG（温室効果ガス）の排出量削減
- ・RE100^{※9} の達成に向けた再生可能エネルギーの導入
- ・TCFD^{※10} にもとづくシナリオ分析結果（農産物収量減、洪水/渇水リスクなど）への中長期的な対応検討及び集中豪雨、洪水等の設備対応、オールハザード型 BCP への反映

5. 廃棄物の発生抑制と再資源化

- ・工場での再資源化率、未使用の販促品・POP の廃棄物発生抑制の維持・推進
- ・廃棄物の安定処理委託先確保

6. マネジメントシステム改善と重大環境事故ゼロの継続

- ・工場・研究所等の相互監査の推進、営業拠点等でのセルフチェック シートによる自主的運用への移行（目標連鎖の確認を含む）
- ・環境法令（廃掃法、フロン排出抑制法、PCB 特措法、水濁法等）順守体制の維持・向上
- ・廃棄物管理担当者への教育継続
- ・是正処置、予防処置の確実な実施、水平展開

7. 環境コミュニケーションの推進

- ・キリンブランド・商品ブランドへの信頼感醸成につなげる外部コミュニケーション（若年層対応含む）推進
- ・TCFD、TNFD^{※11}、ISSB^{※12} 等に対応した先進的開示などによる ESG に対する高い評価の獲得・維持

以上の目標に関連する具体的な KPI である非財務目標及び CSV コミットメントの達成に向けて取組みを進める。

2023年1月1日

キリンホールディングス株式会社 代表取締役社長

磯崎 功典

<注釈>

1. 生物資源

- (※1) RA 認証紅茶農園：スリランカのレインフォレスト・アライアンス（Rain forest Alliance）認証を取得している紅茶農園。
- (※2) FSC 認証紙：FSC（Forest Stewardship Council、森林管理協議会）の基準を満たしていると認められた紙を使っている紙製容器包装、及び事務用紙。
- (※3) RSPO 認証パーム油：RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油のための円卓会議）の基準を満たしていると認められたパーム油。Book&Claim 対応。
- (※4) 生態系を守る活動：国内自社管理ヴィンヤードで実施。

3. 容器包装

- (※5) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+ Renewable（持続可能な資源）
- (※6) PET ボトルの資源循環推進（使用済み PET ボトルの効率的な回収とリサイクル樹脂の活用と、これに向けたケミカルリサイクル事業の推進）
- (※7) PET ボトルの軽量化、及び石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来の PET ボトル樹脂導入。

4. 気候変動対応

- (※8) SBT1.5：Science -based Target（産業革命前からの平均気温の上昇を 1.5℃未満に抑え、2050 年にはカーボンネットゼロとする目標）
- (※9) RE100：Renewable Energy 100%（自社の使用エネルギーを 100%再生可能エネルギー起源にする目標）
- (※10) TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）
- 7. 環境コミュニケーションの推進**
- (※11) TNFD：Task Force on Nature-related Financial Disclosures（自然関連財務情報開示タスクフォース）
- (※12) ISSB：International Sustainability Standards Board（国際サステナビリティ基準審議会）

以上

【キリンググループ プラスチックポリシー】

1. PET ボトルの資源循環を推進します。キリンググループが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用 PET 樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリンググループは、PET ボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を 2027 年までに 50%に高めることを目指します。また、PET ボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済み PET ボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリンググループでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済み PET ボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。
2. ワンウェイプラスチック※の削減および他の素材への代替に努めます。プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリンググループは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

3. PET ボトル原料の持続性向上を目指します。キリンググループでは、これまでも環境負荷軽減の観点からPET ボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。
- また、PET ボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来のPET ボトル樹脂導入の検討も進めていきます。上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。また、キリンビバレッジでは、一般社団法人 全国清涼飲料連合会が昨年発表した「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言 2018」に賛同し、「2030年までにPET ボトルの100%有効利用」の実現に向けて、業界を挙げて取り組んでいきます。

2019年2月策定

【キリンググループ生物多様性保全宣言】

キリンググループは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリンググループは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的に行います。

1. 生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

2. キリンググループの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

3. ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

4. 条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年10月策定・発表

【キリンググループ持続可能な生物資源調達ガイドライン】

■ 目的

「キリンググループ生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

■ 適用範囲

キリンググループが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊等のリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

■ 持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリンググループは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

1. 違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
2. 信頼できる第三者によって認証された農園・森林等に由来するもの

3.環境破壊などを行なっていると判断されている事業者が生産したものではないもの※

■実施と運用に関して

左記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・NGOなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

■情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートや Web 等を通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

※現在のところ FSC の Policy for the Association of Organization with FSC を参照とします。

2012 年 12 月策定、2013 年 6 月発表

【キリングroup持続可能な生物資源利用行動計画】

紅茶

キンビバレッジ株式会社が使用する紅茶葉の主要な原料生産地であるスリランカで、紅茶農園の持続可能性向上を目指します。調達先のスリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。※1

レインフォレスト・アライアンス認証マーク付きの通年商品で認知度を向上させます。

スリランカの紅茶農園にある水源地を保全します。

紙

2020 年に達成したキリンホールディングス株式会社、キンビール株式会社、キンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社での FSC 認証紙または古紙の使用比率 100%を継続し、海外を含めたグループ会社全体に拡大していきます。紙製容器包装※2 は、2030 年までに持続可能性に配慮したことが確認された紙※3 を 100%使用します。※4

その他の紙は、持続可能性に配慮したことが確認された紙、または古紙を使用します。※5

パーム油

国内事業が 1 次原料および 2 次原料として使用しているパーム油について、RSPO 認証証明取引を利用して 100%対応します。1 次原料は RSPO の認証クレジット※6 を利用して対応します。2030 年までには RSPO 認証パーム油※7 の調達を開始し、順次切り替えていきます。

2 次原料は、RSPO の認証クレジットを利用して対応します。RSPO、サプライヤー、NGO およびさまざまなステークホルダーと連携し、調達先が RSPO 認証パーム油を原料として使用できるように取り組みを行っていきます。

コーヒー

キリンビバレッジ株式会社が使用するコーヒー豆の主要な原料生産地であるベトナムで、コーヒー農園の持続可能性向上を目指します。ベトナムのコーヒー農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。

ベトナムのコーヒー農園の保水能力を向上させます。

大豆

キリンビール株式会社が使用する大豆およびその加工品※8において、持続可能性の高い農園の大豆を使用していきます。調達先の大豆農園を特定します。

特定した大豆農園の持続可能性を確認します。

※1:具体的な目標は CSV コミットメントで定めます。

※2:限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品、法によって規制された商品等は除きます。

※3:FSC 認証紙を優先し、困難な場合は FSC 管理木材(コントロールウッド)、PEFC 認証(持続可能性が確認された地域に限る)、キリングroup持続可能な生物資源調達ガイドラインに適合する紙の順とします。また認証等がない紙を使用する場合は、調達先へのアンケート等によって、持続可能性への配慮を確認します。

※4:対象事業会社は、キリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、協和キリン株式会社、協和発酵バイオ株式会社、Lion Pty Ltd、小岩井乳業株式会社とします。対象となる容器の種類や達成年等は CSV コミットメントで定めます。

※5:対象事業会社は※4 の対象事業会社に加えて、キリングroupロジスティクス株式会社、キリンシティ株式会社、Interfood Shareholding Company、Myanmar Brewery Ltd、Four Roses Distillery, LLC とします。具体的な目標は各社で定めます。

※6:Book and Claim 方式

※7:IP (Identity Preserved)、SG (Segregation)、MB (Mass Balance) のいずれかに適合するもの

※8:大豆タンパク

2013 年 2 月策定 2021 年 7 月改訂

【キリングroup遺伝資源アクセス管理原則】

- 1.生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。
- 2.遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。
- 3.遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な配分を含め、国際条約に従い適切に管理する。

2010 年 10 月策定・発表

【エコ・ファーストの約束】

詳細は、エコ・ファースト推進協議会の下記サイトに掲示しています。

[kirin_200624a_r030201.pdf \(ecolst.jp\)](#)

【神戸工場行動指針】

神戸工場はグループ環境目標及び、行動指針に基づき環境保全活動を次の通り推進します。

- ① 温暖化ガス(CO₂・フロンガス等)と用水使用量の削減に努めます。
- ② 廃棄物の発生量削減と分別の徹底及び、法令遵守を含めた工場働くメンバーへの環境教育を継続します。
- ③ 水源の森活動などのCSV活動を通じて、CSV先進企業を目指し地域の環境活動に貢献します。

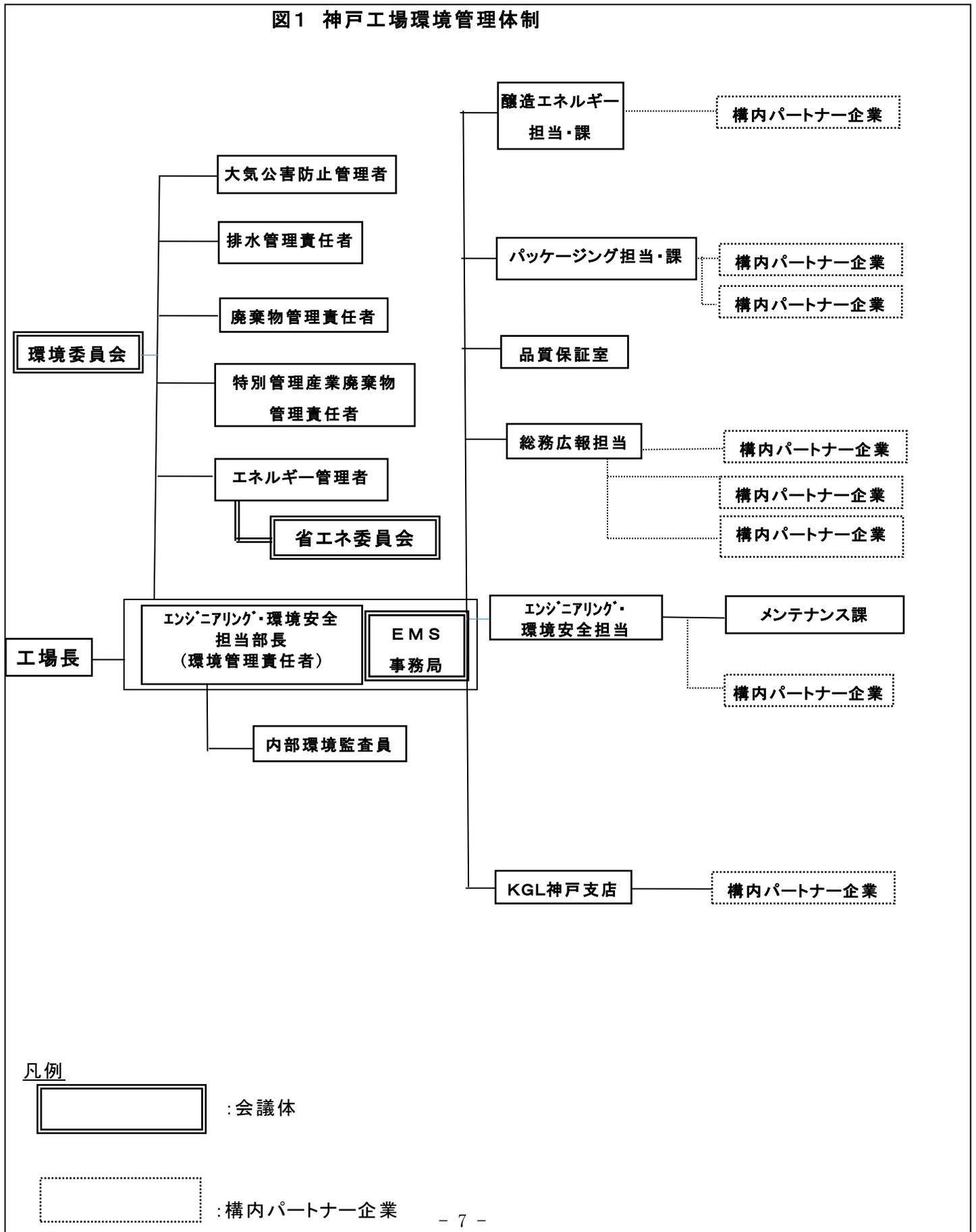
2023年1月1日

神戸工場長

伊藤 康喜

2. 環境保全に関する組織の現況

* 神戸工場における環境管理体制は図1のとおりである。



2. キリングループの環境ビジョン

【目指すは「ポジティブインパクト」】

お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます

キリングループ環境ビジョン2050

ポジティブインパクトで、 豊かな地球を



お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、
自然と人にポジティブな影響を創出することで、
こころ豊かな社会と地球を次世代につなげます

2015年のパリ協定採択を起点に SBTi や TCFD などの国際的なイニシアチブが数多く立ち上がり、プラスチックによる海洋汚染が世界的な問題として議論されるなど、環境に対する世界の動向は大きく変わってきました。2017年から行っている TCFD 最終報告書に基づくシナリオ分析では、気候変動がもたらす農産物や水資源への影響の甚大さも把握できました。企業が行う環境に対する取り組みについても、自社で完結するものから、社会全体へポジティブな影響を与えられるものへと進化することが期待されてきています。このような社会の要請に応えるために、キリングループは新しい環境ビジョンの制定が必要であると判断しました。

食品企業は、原料農産物への気候変動の影響がすでに顕在化していることをいち早く理解できる「炭鉱のカナリア」です。自然資本への影響を抑え、持続可能な地球を次世代に渡すには、ネガティブインパクトを最小化し、ニュートラル化するだけでは足りません。今までの環境に関する統合的 (holistic) な考え方をさらに発展させたのが、「キリングループ環境ビジョン 2050」で新たに加えた「ポジティブインパクト」アプローチです。再生可能エネルギー電源については世の中に追加し増やしていくことで社会の脱炭素化に貢献する「追加性」にこだわり、自らケミカルリサイクルの商業化技術開発に取り組むことで「プラスチックが循環し続ける社会」の構築を目指します。自然資本については、事業を拡大することが生態系の回復・拡大に貢献する「ネイチャー・ポジティブ」を目指します。

私たちはこの新しいビジョンの下、視野を広げ、バリューチェーンから社会全体を対象を拡大し、これからの世代を担う若者をはじめとする社会と共に、こころ豊かな地球を次世代につなげていきます。

<p>生物資源 持続可能な生物資源 を利用している社会</p>	<p>持続可能な原料農産物の育種・展開および調達を行います FSC、RSPO、レインフォレスト・アライアンスなどの認証スキームに合致した原料農産物を調達します 地球温暖化に適応した原料農産物を育種し、原料生産地に展開します 製品廃棄の削減や再資源化を推進し、生産活動によって発生するフードウェイトをゼロにします 農園に寄り添い原料生産地を持続可能にします レインフォレスト・アライアンスなど持続可能な認証の取得支援を拡大し、生産地域における環境課題などを解決します 持続可能な農業による豊かな生物多様性への貢献を調査・研究し、原料生産地に展開します</p>
<p>水資源 持続可能な水資源を 利用している社会</p>	<p>原料として使用する水を持続可能な状態にします グループ拠点における水使用量の削減を継続します 日本国内の水源地の森活動をさらに推進します 事業拠点の流域特性に応じた水の課題を解決します サプライチェーンの強化・効率化により水災害時のリスクを最小化します 原料生産地で水源地保全活動および水を大切にする教育を実施し、バリューチェーンにおける水の課題を解決します</p>
<p>容器包装 容器包装を持続可能 に循環している社会</p>	<p>持続可能な容器包装を開発し普及しますリサイクル材やバイオマスなどを使用した、持続可能な容器包装にします 新容器・サービスの開発を目指します 容器包装の持続可能な資源循環システムを構築します 日本国内のリサイクルシステム構築を牽引します 事業展開地域の資源回収やリサイクルインフラ整備に貢献します</p>
<p>気候変動 気候変動を克服してい る社会</p>	<p>バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量をネットゼロにします早期にRE100を達成するとともに、自社の使用エネルギーを100%再生可能エネルギー起源にします バリューチェーン全体の炭素排出量をネットゼロにします 脱炭素社会構築に向けリードしていきます お客様をはじめとしたステークホルダーと共に、脱炭素社会に寄与するビジネスモデルを構築します 気候変動を緩和する研究を助成し、責任ある再生可能エネルギーを社会に広げます</p>

パフォーマンス・ハイライト

生物資源 持続可能な生物資源を利用している社会 →P.26~P.35

スリランカ紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得支援

大農園認証取得済み農園数 **KBC 94農園** スリランカ全体の認証取得済み大農園のキリンググループの支援で取得した割合 **KBC 約30%**

スリランカ紅茶農園

認証取得支援小規模農園数 **KBC 累計2,120農園**

ベトナム コーヒー農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得支援

認証取得支援小規模農園数 **KBC 309農園**

ベトナムコーヒー農園

その他

事務用紙へのFSC認証紙または古紙の使用 **KB KBC ME 100%**

持続可能なパーム油への対応(パーム核油除く) **KB KBC ME KIW 100%**

フードウェイストの削減(15年比) **KB KBC ME -80%(2020年度)**

容器包装 容器包装を持続可能に循環している社会 →P.44~P.57

PETボトル

PETボトル用樹脂のリサイクル樹脂の使用率 **4.9%**

再生PET樹脂100%使用の[R100ペットボトル]

FSC認証紙を使った紙容器

紙容器

6年パックへのFSC認証紙の使用 **KH KB KBC ME 100%**

ギフト箱へのFSC認証紙の使用 **KH KB KBC ME 100%**

紙パックへのFSC認証紙の使用 **KH KB KBC ME 100%**

製品用段ボールへのFSC認証紙の使用 **KH KB KBC ME 100%**

水資源 持続可能な水資源を利用している社会 →P.36~P.43

用水削減

用水原単位削減率(1990年比) **KB -49%** (15年比) **LN 4%** (オセアニア地域*)

用水使用量削減率(19年比) **KKC -25%** (15年比) **KHB -52%**

水の恵みを守る活動

参加人数累計 **約32,000人**

スリランカ紅茶農園の水源地保全

水源地保全数 **KBC 12カ所**

水源の森活動

スリランカ紅茶農園内の水源地保全

※New Belgium Brewingを除いたライオンのオセアニア地域が対象です。

キリンググループ環境ビジョン2050

ポジティブインパクトで、豊かな地球を

一緒につくりたい2050年の社会

お客様をはじめ広くステークホルダーと協働し、自然と人にポジティブな影響を創出することで、ここから豊かな社会と地球を次世代につなげます

気候変動 気候変動を克服している社会 →P.58~P.71

GHG排出量削減

バリューチェーン全体のGHG排出量 **KG 4,411千tCO₂e**

GHG排出量削減率: Scope1と2の合計(19年比) **KG -13%**

GHG排出量削減率: Scope3(19年比) **KG -12%**

再生可能エネルギー

使用電力の再生可能エネルギー比率 **KG 17%**

RE100 CLIMATE GROUP | CDP RE100加盟、SBT1.5承認

大規模太陽光発電を導入

廃棄物

工場の再資源化

再資源化率 **KB KBC KD 100%**

次世代

キリン・スクール・チャレンジ

参加人数累計 **1,097人**

KG キリンググループ KH キリンホールディングス KB キリンビール KBC キリンビバレッジ ME メルシャン KKC 協和キリン KHB 協和パイオ
KD キリンディスタリリー KIW 小岩井乳業 LN ライオン

*掲載資料に関しては、キリンググループ環境報告書などキリンホールディングス ホームページより抜粋。

3. 神戸工場での取組み

1. 持続可能な社会に向けた取り組みの強化

(1) 低炭素化・省資源化に向けた取り組み

- ① ビール類製造工程の見直しと3000MW級太陽光の活用によるCO₂排出量の削減。
- ② 広報設備・レストラン、店舗のCO₂排出量の削減。
- ③ 用水原単位目標(4.0[m³/KL])、エネルギー原単位目標(1.49[GJ/KL])の達成。

2. 環境リスク低減

(1) 廃棄物リスクの低減

- ① 工場内廃棄物勉強会の実施による廃棄物分別強化。
- ② 法規・基準等の順守による適正な廃棄物管理(特管廃棄物含む)および環境保全。
- ③ 冷凍機・空調機・業務用冷蔵庫などのフロン機器使用及び廃棄時の、フロンガス適正管理及び処理。
- ④ 分別強化、管理方法見直しによる副産物・廃棄物の付加価値化(有価物化)・減量化による、コスト削減。

(2) 環境リスクの低減

- ① リスク・事故情報(ヒヤリハット及び再発防止策を含む)の共有化と活用による環境リスク低減。
- ② 設備不具合箇所の改善、管理基準の改訂、事故防止訓練、汚染物質の場外流出事故ゼロ。
- ③ フロン排出抑制法に準拠したフロン機器管理及び、機器点検の徹底。及び廃棄時の管理徹底。

(3) 工場の環境マネジメントシステムの適正な運用

- ① 環境側面の特定と適宜見直しによるEMSの適切な運用。
- ② 社内工場間監査によるシステムの点検と維持向上。
- ③ 乾燥酵母の安定製造による高付加価値化。
- ④ ビオトープを中心とした、希少生物保護による生物多様性の保護。
- ⑤ 環境関連法令遵守・管理体制の向上。

4. 公害防止対策に係る計画

	管理・行動目標
大気汚染防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「大気汚染防止法」及び大気汚染防止に関する神戸市条例等の法令の規定を遵守する。 ◆ばい煙発生施設からの排出規制に関わる自主管理基準を作成し、維持管理する。 ◆環境負荷の少ない都市ガスを燃料として使用する。
水質汚濁防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「水質汚濁防止法」及び水質汚濁防止に関する神戸市条例等の法令の規定を遵守する。 ◆公共下水道に排出する排水の水質に関わる自主管理基準を作成し、維持管理する。 ◆有害物質について可能な限り使用量及び排出量を把握し、公共下水道へのこれらの排出削減に努める。 ◆有害物質等による土壌及び地下水汚染の未然防止に努める。
騒音防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「騒音規制法」及び騒音防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守する。 ◆周辺地域の環境基準の達成と維持に支障がないように努める。
振動防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「振動規制法」及び振動防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守する。
悪臭防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ◆「悪臭防止法」及び悪臭防止に関する神戸市条例に定める基準を遵守する。 ◆自主管理基準を作成し、悪臭防止に努める。
産業廃棄物の適正処理及び、発生抑制。	<ul style="list-style-type: none"> ◆廃棄物の処理及び清掃に関する法律等の規制を遵守し、廃棄物の適正処理を行う。 ◆有害物廃棄物の発生量を抑制するとともに再利用を促進する。

* 自主管理基準については規制値を順守できるような数値を定め、管理を継続していく。

6. 地球温暖化対策に係る計画

・目標達成のために講ずる措置・対策

措置の区分	具体的対策
エネルギーの使用合理化	<ul style="list-style-type: none"> ・キリンビール全体の製造工程で炭酸ガス排出量を抑制するため、神戸工場としては以下の対策を実施する。 ・省エネ案件計画の集約と省エネ課題の共有化、進捗管理を継続する。 ・コージェネレーションシステムの安定稼働と排熱回収による省エネを継続する。 ・エネルギーの効率的な利用と炭酸ガス排出の抑制を図る。 ・太陽光発電システムの日常運転と管理を行う。
	<p>照明の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋・場所等は消灯を徹底する。 ・電灯スイッチと照明範囲を明示、在室ゾーンのみ点灯、不要箇所は消灯する。 ・窓面など昼光のある場所は、消灯する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み等の不要時間は消灯する。 ・定期的に照明器具の清掃・交換を行う。 ・計画的に照明のLED化を進める。
	空調の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・冬の暖房時の設定温度を20℃にする。(ウォームビズ) ・夏の冷房時の設定温度を28℃にする。(クールビズ) ・時間外の空調時間を短縮する。 ・使用していない部屋の空調をカットする。 ・直射日光が当たる窓は、断熱ブラインドや断熱シート等により日射遮断の工夫を行う。
	事務機器の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・「節電モード」機能のある機器は常時「節電モード」にする。 ・最終退出時に、不要な事務機器は、OFFにする。
	AV機器の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・タイマー・メモリー等を使用しないAV機器は、本体電源をOFFにする
	昇降機の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・時間帯別運転スケジュール管理をする。 ・2階以内の昇降は、昇降機は使用せず、階段を利用する。
	温水洗浄便座の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・使用后、ふたを閉める。 ・季節に合わせて、便座・シャワー水の設定温度を調節する。 <p>(春期・秋期:低、夏期:切、冬期:普通)</p>

7. 公害防止対策及び地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る計画

公害防止対策、地球温暖化対策以外の環境保全活動に係る目標、計画

	分野	項目	目標
1	廃棄物の適正処理及び、減量。	廃棄物の分別回収、廃棄物発生量の削減	廃棄物の分別回収の周知徹底、廃棄物の発生抑制・再利用の継続
		副産物・廃棄物の再資源化	副産物・廃棄物の再資源化率100%の維持
		空缶、空壺、紙他の分別回収	副産物・廃棄物の再資源化率100%の維持
		コピー用紙使用量の削減	コピー用紙使用量を前年より削減する。再利用の推進
2	グリーン調達	グリーン購入の実施	事務用品のグリーン調達の継続
		植林木パルプ紙の使用促進	植林木パルプ紙の購入の継続
		プリンタトナーカートリッジの再生利用	プリンタトナーカートリッジの再生利用の継続
3	環境負荷の少ない資源・材料・燃料の選択	良質燃料の使用	都市ガス使用の継続
4	自動車対策	積載量の適正化	指導の徹底・維持
		エコドライブ・アイドリングストップの推進	指導の徹底・維持
5	特定フロン	特定フロン類使用設備の適正管理	管理の徹底・継続(改正フロン法の遵守)
		特定フロン使用機器の適正廃棄	管理の徹底・継続(改正フロン法の遵守)
6	環境に配慮した施設整備	緑地の整備	生物多様性を意識したビオトープを中心とし

			た、緑地整備活動の推進。*1
		レフュジアビオトープ*1維持管理	カワバタモロコ他の棲める環境の維持 (三田地域に棲む絶滅危惧種)
7	従業員教育	環境保全に関する社員研修	社内研修を通して環境方針や活動の理解と意識の高揚をはかる。
		キリンビール環境報告書、社内・場内報等での社員の啓発	社員への周知の実施
8	地域社会への参画	工場・周辺地域の清掃活動	環境美化活動の継続実施 水源の森活動の継続実施
		生物多様性保全への取り組み	ビオトープを中心とした、緑地整備活動の推進。*1
9	環境マネジメントシステムの充実	自主宣言型 ISO14001*2の維持	自主宣言型 社内内部及び、工場間での監査の実施
10	環境会計	環境会計のデータ精度向上	精度向上

* 1 レフュジアビオトープ(潜在生物復元型ビオトープ)；

つい30年前までは、ごく普通であった里のため池とそれに隣接した里山を工場敷地のビオトープ池を中心に再現し、開発以前に生息していた或いは潜在分布域である生物群集の復元を、最上限の人為を導入して促す。更に、絶滅が危惧されている里山やため池に生息する「希少種」の一時的な避難場所としての機能を同時に果たす。

* 2 ISO14001について；

キリンビールは、1997年3月21日北陸工場で、食品業界に先駆けて、ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)規格の認証(JSAE007)を取得した。

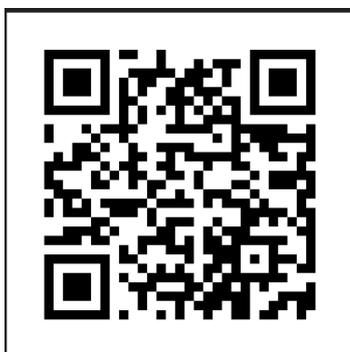
2008年には、各工場と本社のISO14001環境マネジメントシステム(EMS)を統合し、適用範囲を全国各地の営業事業所、物流事業所に拡大し、ビールその他アルコール飲料等の研究開発、商品開発、資材調達、生産、物流および販売促進に係る全ての領域をカバーする統合認証をビール業界では初めて取得した。また、2014年より「自主宣言型」へ移行し、グループ各工場独自の環境への取組みを進めている。

キリングループの環境への詳細な取り組みは、以下のインターネットサイトからご覧になれます。

● パソコンサイト

<https://www.kirinholdings.com/jp/impact/env/>

● スマートフォンサイト(二次元バーコード)を読み取り、指定のサイトをご覧ください。



以上